

射水市内遺跡発掘調査報告8

— 平成26年度高島A遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他 —

2016年

富山県射水市教育委員会

射水市内遺跡発掘調査報告8

—平成26年度高島A遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他—

2016年

富山県射水市教育委員会



天池C遺跡【①地区】炭焼窯全景 出土遺物（須恵器・鉄滓）

卷首図版2



高島A遺跡【11地区】出土遺物（弥生土器・古墳土師器）

射水市内遺跡発掘調査報告8

—平成26年度高島A遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他—

2016年

富山県射水市教育委員会

例言

- 1 本書は、平成26年度に富山県射水市内において射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査の調査報告書である。
- 2 本発掘調査・試掘調査・出土品整理・報告書刊行は、国庫補助金・県費補助金を受けて実施した。
- 3 対象となった埋蔵文化財、並びに調査に関する位置・原因・面積・期間等は各章に記した。
- 4 本書の執筆・編集は、射水市教育委員会生涯学習・スポーツ課主任 田中 明が担当した。
- 5 遺物整理の従事者は、高瀬直子・開 一美・吉沢泰子である。
- 6 発掘調査に係る遺物・図面・写真等の資料は、すべて射水市教育委員会で一括保管している。

凡例

- 1 本書で用いた座標は世界測地系第Ⅷ系に準拠した。方位は真北、水平基準は海拔高である。
- 2 遺構の分類記号は次の呼称を踏襲した。 S D : 溝 SK : 土坑 S : 炭焼窯
- 3 遺構実測図の縮尺は各々のスケールとともにその縮尺を表記した。遺物実測図の縮尺は土器の1/4とし、スケールとともにその縮尺を表記した。
- 4 出土遺物の番号は、遺物実測図・遺物観察表・写真図版の遺物番号にそれぞれ対応している。
- 5 本書で用いた土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄編著『新版標準土色帖』に準拠している。
- 6 第5章第1節における発掘地区図版の試掘トレンチ脇の記号は、遺物の出土位置を示し、種類は次のとおりとした。
 - : 弥生土器 ○ : 古墳土師器 ▽ : 古代土師器 ▲ : 須恵器 ■ : 珠洲 □ : 中世土師器
 - ◎ : 近世陶磁器 ⊗ : 石製品 ☆ : 不明土師器 T : トレンチ (試掘坑)
- 7 遺物実測図中の土器断面の表現は次のとおりとした。
 - : 須恵器・珠洲 ■ : 煤・炭化物

目次

第1章 遺跡の位置と歴史的環境	1
第2章 高島A遺跡本発掘調査	3
第3章 水戸田地区試掘調査	9
第4章 天池C遺跡工事立会調査	13
第5章 その他の遺跡調査	16
第1節 平成26年度試掘調査概要	
1. 小杉伊勢領遺跡	18
3. 小杉伊勢領遺跡	19
6. 新開発遺跡	20
8. 小杉焼高窯跡	21
10. 戸破神川遺跡	22
12. 黒河尺目西遺跡	23
14. 金屋畠遺跡	24
16. 作道遺跡	25
18. 八塚C遺跡	26
20. 坂東遺跡	27
22. 北高木遺跡	28
24. 干田遺跡	29

卷首図版目次

卷首図版1 天池C遺跡【①地区】炭焼窯全景 出土遺物（須恵器・鉄滓）
卷首図版2 高島A遺跡【11地区】出土遺物（弥生土器・古墳土師器）

挿図目次

第1図	射水市の位置	1
第2図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第3図	発掘区位置図〔高島A遺跡〕	3
第4図	遺構実測図〔高島A遺跡11地区〕	5
第5図	遺物実測図〔高島A遺跡11地区〕	6
第6図	遺物実測図〔高島A遺跡11地区〕	7
第7図	調査対象地及び周辺の遺跡	9
第8図	基本層序模式図	10
第9図	トレンチ配置図〔水戸田地区試掘調査〕	11
第10図	遺物実測図〔水戸田地区試掘調査〕	12
第11図	調査対象地及び周辺の遺跡	13
第12図	遺物実測図〔天池C遺跡工事立会調査〕	14
第13図	遺構実測図〔天池C遺跡工事立会調査〕	15
第14図	試掘調査位置図	17
第15図	遺物実測図〔戸破神田遺跡・黒河尺目西遺跡・黒河南遺跡・坂東遺跡〕	29
第16図	遺物実測図〔針原東遺跡・加茂社遺跡〕	30
第17図	遺物実測図〔北高木遺跡〕	31

表目次

第1表	出土遺物観察表〔高島A遺跡11地区〕(1~29)	8
第2表	出土遺物観察表〔水戸田地区試掘調査〕(1~7)	12
第3表	出土遺物観察表〔天池C遺跡工事立会調査〕(1~14)	14
第4表	平成26年度埋蔵文化財発掘調査一覧	16
第5表	出土遺物観察表〔試掘調査〕(1~53)	32

図版目次

図版1	高島A遺跡 [11地区]	遺構全景・溝S D01遺物出土状況
図版2	高島A遺跡 [11地区]	溝 S (01・02・03・08・10)・土坑 S K (05・12・15)
図版3	高島A遺跡 [11地区]	出土遺物（弥生土器・古墳土師器）
図版4	高島A遺跡 [11地区]	出土遺物（須恵器・珠洲・中世土師器）
	水戸田地区試掘調査	出土遺物（弥生土器・須恵器・珠洲・近世陶器）
図版5	水戸田地区試掘調査	17T全景・17T遺構検出・作業状況
図版6	水戸田地区試掘調査	19T全景・19T遺構検出・山砂充填状況
図版7	天池C遺跡工事立会	半地下式炭焼窯〔①地区〕・全景〔②地区〕・土坑〔③地区〕
図版8	天池C遺跡工事立会	地下式炭焼窯〔③地区〕・出土遺物（須恵器・鉄滓）
図版9	戸破神田遺跡試掘調査	6T全景・5T遺構検出・出土遺物（須恵器・土師器・近世陶磁器）
図版10	黒河尺目西遺跡	調査対象地全景・6T遺構検出・出土遺物（須恵器・土師器・近世陶磁器）
	黒河南遺跡試掘調査	調査対象地全景・1T遺構検出・出土遺物（古墳土師器）
図版11	針原東遺跡試掘調査	2T全景・1T遺構検出・出土遺物（須恵器・珠洲・中世土師器）
図版12	坂東遺跡試掘調査	調査対象地全景・3T遺構検出・出土遺物（須恵器・珠洲）
図版13	北高木遺跡試掘調査	5T全景・2T遺構検出・出土遺物（古墳土師器・須恵器・珠洲・近世磁器）
図版14	加茂社遺跡試掘調査	

第1章 遺跡の位置と歴史的環境

射水市は富山県のはば中央に位置し、市域は東西約11km、南北約15kmで総面積109.43km²である。北部に富山湾、中央に射水平野、南部に射水丘陵を配し、標高0~140mを測る。富山市・高岡市と隣接し、交通の便に恵まれてことから、住宅団地造成が頻繁に行われ、ベットタウン化が進んでいる。現在の人口は約9万4千人余りである。

射水平野は、東の神通川と西の庄川に挟まれた東西約11km、南北約7kmの範囲の低湿地帯である。およそ1万~8千年前に形成された複合扇状地性三角州沖積平野で、河川によって運ばれた土砂や粘土・礫が堆積している。この沖積層が堆積した時代は、海岸線が沖へ後退して平野部は現在より広かったとみられ、その後は気候変化による繩文海進とよばれる海面上昇により、海岸線が陸へ進行して平野部が狭まり、現地形で標高約5m以下は海面下に没することになる。やがて気候の寒冷化による海面後退、河川の土砂が堆積することでかつての海は小さく放生津潟（現：富山新港）としてのみ形を残し、周辺に湿原が現れる。この湿原は放生津潟の水面と標高差が殆どないため、河川の流れが浸み沼沢地を形成、湿原の植物が枯れて泥炭が堆積し、平野部が開けていくことになる。また、射水丘陵は新生代第三紀の青井谷泥岩層を基盤とし、上層に礫と砂泥からなる日ノ宮互層と太閤山火砕岩層が堆積している。鍛冶

川・下条川・和田川やその支流によって河岸段丘や樹枝状の谷間が形成されている。このような自然環境の中で、先人達は集落を形成していくと考えられる。現在、市内には459箇所の遺跡が密集し、平野部に集落遺跡、丘陵部に生産遺跡が多く確認されている。

丘陵部では国指定史跡の小杉丸山遺跡、小杉流通業務団地内遺跡、上野南遺跡、赤坂A~D遺跡など生産遺跡が集中している。これらの遺跡は須恵器窯跡約39遺跡、製鉄遺跡約147遺跡を数えており県内最大規模を有する。須恵器生産窯や鉄生産製鉄炉と炭焼窯、工人の住居や作業場が見つかり、窯や炉を築くのに適した地形、粘土や薪・水の供給源が豊富にあることが好条件であったと考えられている。平野部では河川に近い地域に高島A遺跡、北高木遺跡、二口油免遺跡、小杉伊勢領遺跡などの集落遺跡が分布し、堅穴建物や掘立柱建物、溝や井戸などが確認されている。生産地である丘陵部と消費地である平野部を河川が結んで、交通路として機能していたために集落が営まられてきたと考えられている。

高島A遺跡は、庄川右岸に形成された標高約1.5m前後の沖積低地に立地し、弥生・古墳時代を主体とする遺跡である。遺構では弥生時代中期の周溝をもつ平地式建物や方形周溝墓、遺物では全国初となる装飾性に富んだ二枚貝を思わせる弥生時代の石製品も出土している。

水戸田地区は市内ほぼ中央域に位置する。東西約0.9km、南北約2.3kmを測り、北部は水田地帯、南部は丘陵地となっている。その丘陵地には全長43mの前方後円墳である五歩一古墳や瓦陶兼業窯の国指定史跡小杉丸山遺跡を中心に、古墳時代~古代に至る古墳・須恵器窯・製鉄炉等が確認されている。



第1図 射水市の位置

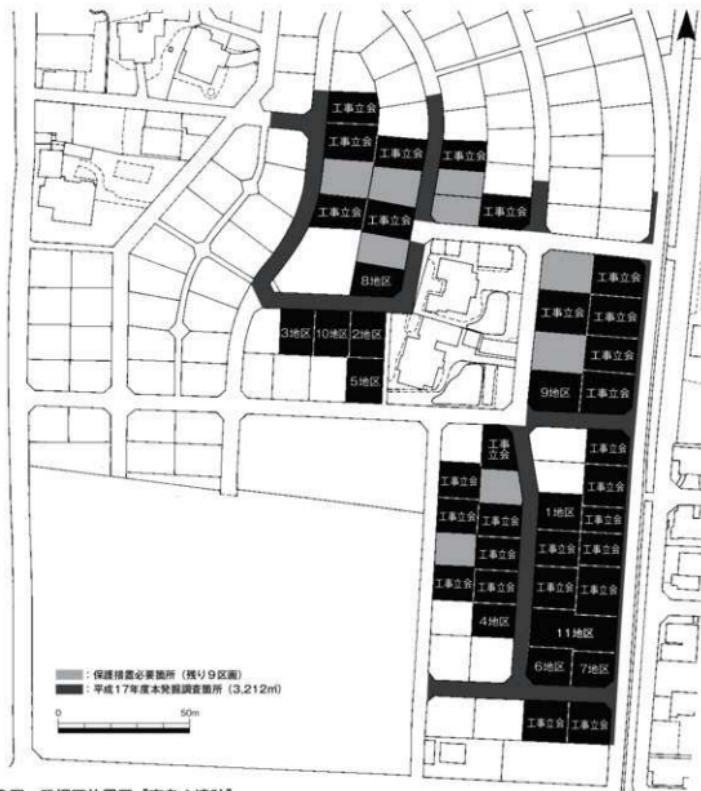


第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

第2章 高島A遺跡本発掘調査

第1節 調査に至る経緯

平成13年度、新湊市（現射水市）鏡宮地区における土地区画整理事業計画の照会を受けた。平成14年度、事業計画地が埋蔵文化財包蔵地（高島A遺跡）に含まれることから、遺跡保護と工事計画の調整を図る目的で試掘調査を実施した。その結果、計画地南側半分の約25,000m²を中心に弥生時代中期から古墳時代前期の遺構・遺物を確認した。このため、遺構に影響が及ぶ工事を実施する場合は、本発掘調査による記録保存が必要との判断を示した。平成17年度、造成工事に先立ち計画道路部分の3,212m²において本発掘調査を実施した。平成19年度、分譲が開始され宅地49区画で遺跡の保護措置が必要となり、工事が地下遺構に与える影響を判断しながらの対応となった。平成19～25年度で10件、平成26年度1件で計11区画の本発掘調査を完了した。これまでに28件の工事立会も実施し、残り9区画分の保護措置は平成27年度以降の対応となった。



第3図 発掘区位置図【高島A遺跡】

第2節 調査の概要

調査区は造成工事により山砂の盛土がなされているため、まず重機で盛土と旧水田耕作土を除去し、その後に作業員を投入して、遺構検出、遺構掘削、遺物取り上げを順次人力で行った。作業の進捗状況に応じて写真撮影（高精細デジタル）や遺構概略図（1/100）、遺構断面図・遺構平面図（1/20）作成等の記録図化作業を実施した。調査終了後は、埋め戻しを行い現状復帰を図っている。その際に住宅基礎工事の改良掘削深度より深い遺構が検出された地区では、不同沈下防止のため新たな山砂を充填し重機で踏み固めている。

調査区の基本層序は1～3層に分層される。上から1層は山砂の造成盛土、2層は山砂の下の旧水田耕作土、3層は灰黄色（2.5Y7/2）シルトの地山である。遺構は全て3層から掘り込まれている。

第3節 遺構と遺物 [11地区]

1号溝（SD01、第4～6図、図版1～3）

調査区西側に位置し、南東～北西方向に向けて直線的に流れる溝である。全長6.5m、幅1.8m～2.2m、深さは最深で22cmを測る。覆土は上層に黄灰色粘質シルト、下層に黒色粘質シルトが堆積する。南側隣接調査区（6地区）で検出した1号溝（SD01）の繋がりと考えられ、北端は調査区外へのびる。遺物は弥生土器・須恵器が出土。第5図2・4・5は長野県中野市栗林式土器の搬入品と考えられる。弥生時代中期後半の壺で、口縁部に繩文・羽状文・沈線文などを施している。

3号溝（SD03、第4・6図、図版1・2・4）

調査区西側に位置し、南東～北西方向に向けて緩やかで曲線的に流れ、両端とも調査区外へのびる溝である。全長7m、幅58cm～82cm、深さは最深で10cmを測る。覆土は地山層が混在する黄灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器・須恵器・中世土師器が出土。第6図21は須恵器の壺又は甕の破片、24は口径7.0cmを測る中世土師器の灯明皿である。

10号溝（SD10、第4・6図、図版1・2・4）

調査区中央部に位置し、南西～北東方向に向けて直線的に流れ、両端とも調査区外へのびる溝である。全長7.1m、幅28cm～62cm、深さは最深で27cmを測る。途中で8号溝によって掘りこまれており、開削時期は8号溝より古い。覆土は地山層が混在する黄灰色粘質シルトが堆積する。遺物は弥生土器・中世土師器が出土。第6図23は口径7.6cmを測る中世土師器の灯明皿である。

5号土坑（SK05、第4・6図、図版1～3）

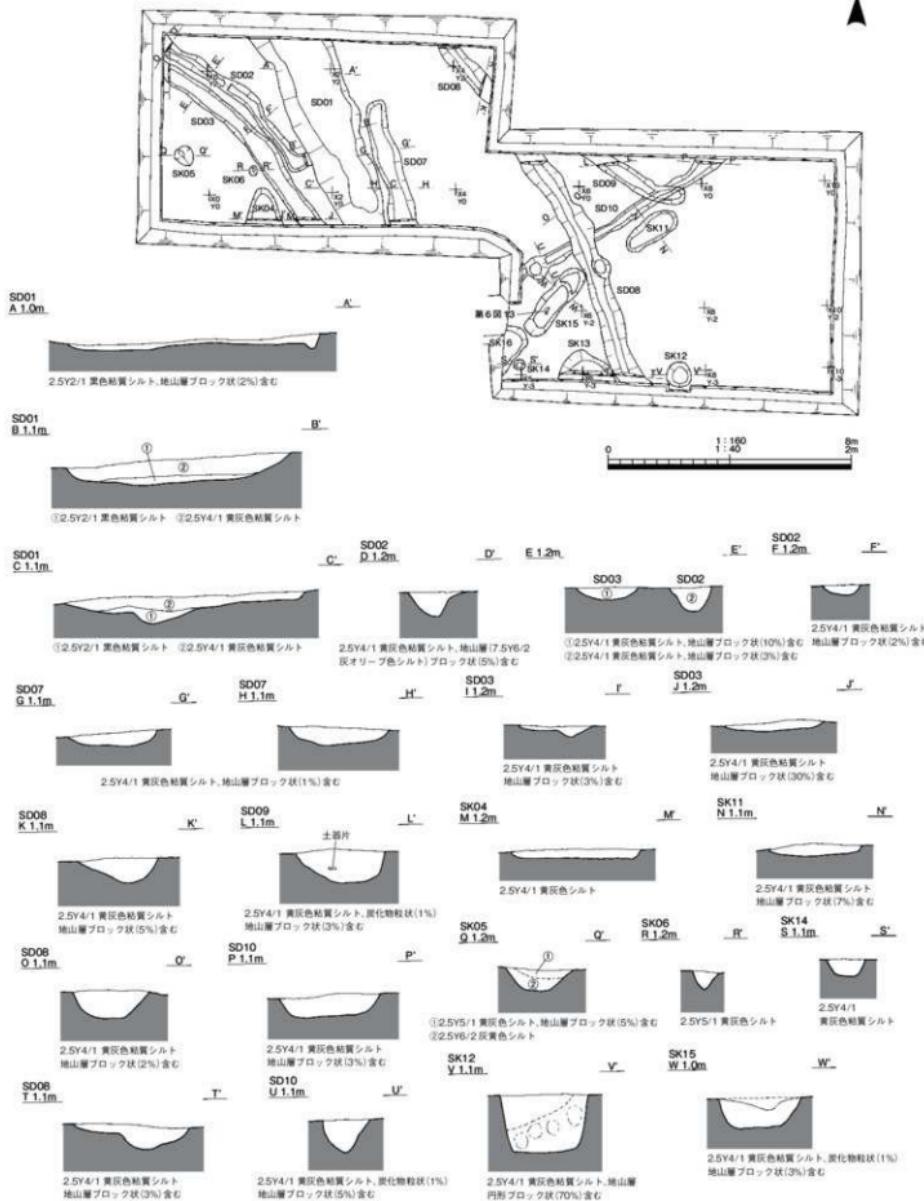
調査区西端部に位置し、直径約58cmを測る円形土坑である。深さは17cmで、覆土は上層に地山層が混在する黄灰色シルト、下層に灰黄色シルトが堆積する。遺物は弥生土器が出土。第6図8は口縁部外面に擬四線を施す弥生時代後期後半の甕である。

12号土坑（SK12、第4図、図版1・2）

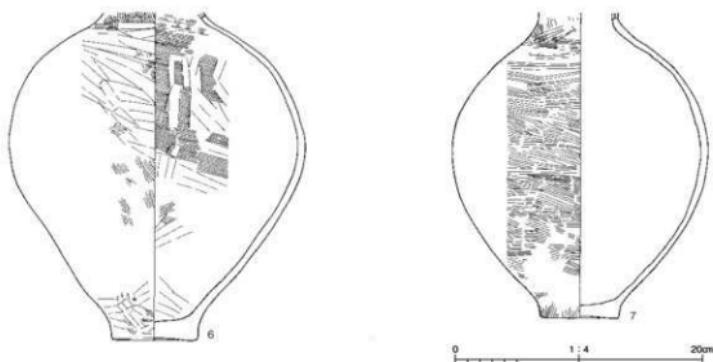
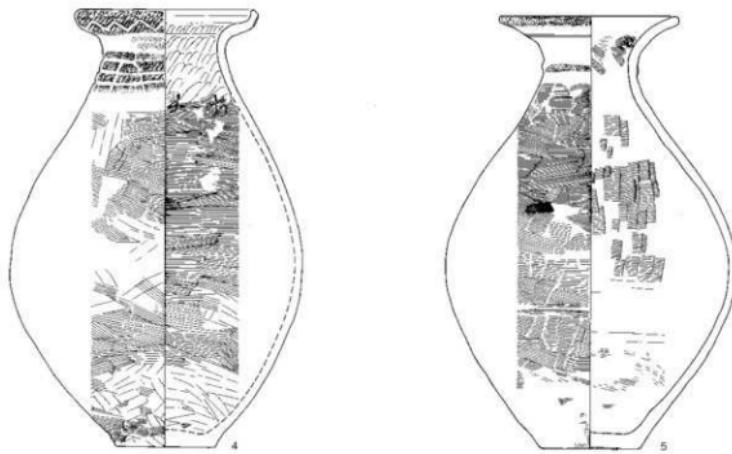
調査区東側に位置する、直径約80cm、深さ47cmを測る円形土坑である。断面は逆台形状を呈し、覆土は地山層が混在する黄灰色粘質シルトが堆積する。湧水が著しいため井戸の可能性も考えられる。遺物は図化できるものは無かったが、弥生土器片が出土している。

15号土坑（SK15、第4・6図、図版1～3）

調査区中央部に位置する梢円形土坑である。規模は長軸270cm、短軸75cm、深さは最深で24cmを測る。断面は逆台形状を呈し、覆土は黄灰色粘質シルトに炭化物・地山層が混在する。遺物は古墳土師器が出土している。第6図12は外面に煤が付着している「く」の字甕。13は球胴で丸底、口径11.4cmを測る直口壺。14はS字状のスタンプ文を施す器台。15は口径21.5cmを測る有段高杯。

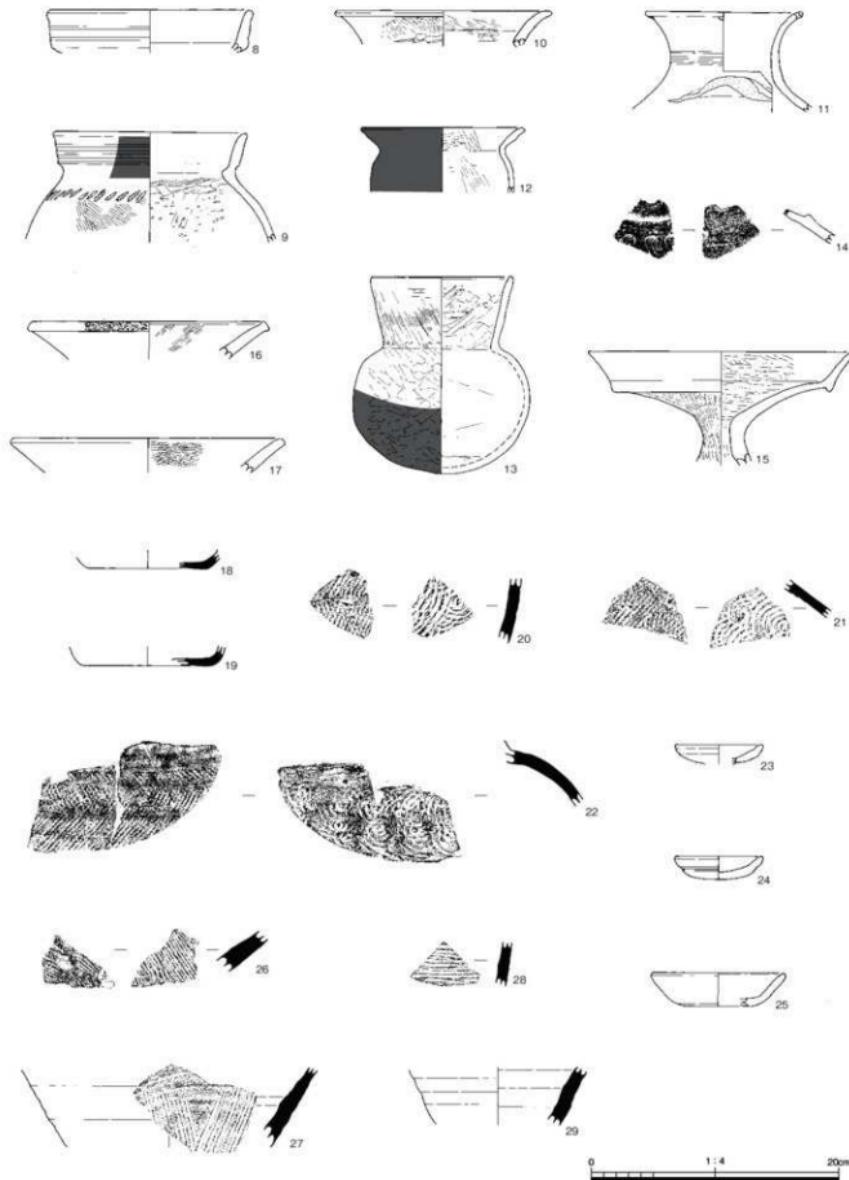


第4図 遺構実測図【高島A遺跡11地区】(1/160、断面図1/40)



0 1:4 20cm

第5図 遺物実測図 [高島A遺跡11地区] (1/4)



第6図 遺物実測図【高島A遺跡11地区】(1/4)

図版	No.	出土遺構	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第5図	1	SD01	弥生土器	甕	19.2			外面煤付着	口1/10
	2	SD01	弥生土器	甕	9.4			縄文 羽状文 栗林式	口1/4
	3	SD01	弥生土器	甕(壺)			6.1	底完存	
	4	SD01	弥生土器	甕	14.2	36.0	8.2	縄文 沈線文 栗林式	はば完存
	5	SD01	弥生土器	甕	14.4	35.4	8.1	縄文 栗林式	はば完存
	6	SD01	弥生土器	甕			7.0		体3/4 底完存
	7	SD01	弥生土器	甕			6.3		体5/6 底完存
第6図	8	SK05	弥生土器	甕	16.2			擬四線文	口1/8
	9	SK16	弥生土器	甕	15.5			外面煤付着 擬四線文 刻み目文	口4/5 体5/8
	10	SK13	古墳土師器	甕	17.4				口1/16
	11	SD07	古墳土師器	甕	12.3			穿孔3箇所	口3/4
	12	SK15	古墳土師器	甕	13.0			外面煤付着	口1/6
	13	SK15	古墳土師器	甕	11.4	16.1		外面煤付着 S字状スタンプ文	口1/2 底完存 破片
	14	SK15	古墳土師器	器台					口1/2
	15	SK15	古墳土師器	高环	21.5				口1/12
	16	X6・Y1	古墳土師器	甕	18.6			竹管文	口1/14
	17	表土剥ぎ	古墳土師器	甕	21.6				底1/8
	18	表土剥ぎ	須恵器	环			10.2		底1/5
	19	SD01	須恵器	环			10.6		
	20	X4・Y0	須恵器	甕(壺)				青海波文	破片
	21	SD03	須恵器	甕(壺)				青海波文	破片
	22	表土剥ぎ	須恵器	甕				青海波文	破片
	23	SD10	中世土師器	皿	7.6				口1/4
	24	SD03	中世土師器	皿	7.0				口1/2
	25	X6・Y-3	中世土師器	皿	10.8	2.7	6.8		口3/8
	26	SD02	珠洲	片口鉢				単目	破片
	27	X3・Y1	珠洲	片口鉢				単目 12条	破片
	28	表土剥ぎ	珠洲	甕(壺)					破片
	29	表土剥ぎ	珠洲	甕					破片

第1表 出土遺物観察表〔高島A遺跡11地区〕

口：口縁部 底：底部 体：体部

参考文献

- 金三津英則他 2006年「高島A遺跡発掘調査報告書－鏡宮高島地区西整理事業に伴う発掘調査－」射水市教育委員会
- 金三津英則他 2007年「高島A遺跡発掘調査報告－射水市立新浜南部中学校用地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査－」射水市教育委員会
- 田中 明他 2010年「射水市内遺跡発掘調査報告II－高島A遺跡・松木遺跡・干田遺跡本発掘調査他－」射水市教育委員会
- 田中 明他 2011年「射水市内遺跡発掘調査報告III－高島A遺跡本発掘調査・土合地区分布調査他－」射水市教育委員会
- 田中 明他 2012年「射水市内遺跡発掘調査報告IV－高島A遺跡本発掘調査・広上地区分布調査他－」射水市教育委員会
- 稻垣尚美他 2015年「射水市内遺跡発掘調査報告7－平成25年度高島A遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他－」射水市教育委員会

第3章 水戸田地区試掘調査

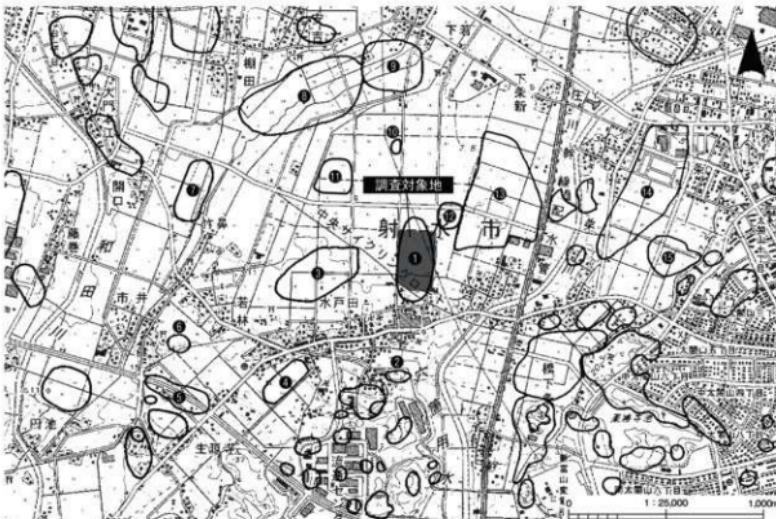
第1節 調査に至る経緯と調査の経過

平成22年10月、富山県高岡農林振興センターから、射水市水戸田地区における県営は場整備事業の実施に係る事前協議を受けた。事業は、平成24年度から30年度までの7か年計画であり、地区内の農道・用排水路等の撤去・新設及び水田の切土・盛土を含み、大区画は場へ再整備するものである。

事業計画地縁辺部においては、周知の埋蔵文化財包蔵地として本田宮田遺跡・本田畠田遺跡・水戸田遺跡・生源寺Ⅱ遺跡・生源寺Ⅲ遺跡・大白北遺跡・水戸田神明堂遺跡が知られていたが、事業計画地内の大部分を占める水田部においては発掘調査実績が少なく、埋蔵文化財に関する情報が不足していた。そのため、事業計画地全域の約69haを対象として、小規模なトレンチ発掘を併用した分布調査を実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地範囲を含めた遺構面及び旧地形の遺存状況と、埋蔵文化財の大まかな範囲を把握したうえで、事業計画との調整を図ることとなった。

分布調査は、射水市教育委員会が主体となって、平成23年10月13日から11月16日にかけて実施した。調査の結果、既存の埋蔵文化財包蔵地に加え、遺構・遺物の分布や旧地形の状況等から、複数個所において、古代・中世を中心とした埋蔵文化財包蔵地の存在が想定でき、約28haの範囲で試掘調査による埋蔵文化財の範囲及び遺存状況等の確認が必要となった。

その後、事業者との協議を重ね、調査対象範囲が広大であること、年間の調査期間が収穫後の秋以降に限られることから、平成24～26年度の3か年計画で、射水市教育委員会が主体となって試掘調査を実施することとなった。最終年度の平成26年度は46,279m²を調査対象地として実施した。



第7図 調査対象地及び周辺の遺跡 (1:25,000)

- 水戸田道路
- 水戸田神明堂道路
- 生源寺Ⅱ道路
- 生源寺Ⅲ道路
- 生源寺道路
- 市ノ井東道路
- 岡田道路
- 本田宮田道路
- 本田畠田道路
- 水戸田前野道路
- 水戸田惣分Ⅱ道路
- 水戸田惣分Ⅰ道路
- 大白北道路
- 赤田Ⅰ道路
- 赤田東道路

第2節 調査の方法

試掘調査では、山積0.28m³のバックホウを使用して、幅約1.0m、長さ10.3m～45.6mの試掘トレンチを任意に設置し、遺構面と考えられる層まで掘り下げた。バックホウによる掘削の後、人力によりトレンチ床面及び壁面の精査を行い、遺構・遺物の有無を確認するとともに、土層断面の実測及び写真撮影により記録を作成した。

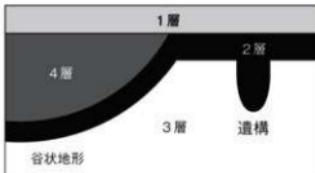
大区画は場を整備するという事業の性格上、水田面の平行を確保するための切土・盛土調整が伴うこととなるため、試掘調査では遺構の平面的な広がりに加え、特に遺構面標高値の測定に高い精度が求められた。測量精度の確保及びほ場整備事業計画との整合を図るため、試掘トレンチの平面位置測量及び標高基準面測量は測量業者に委託して実施し、測量原点となる標高点及び基準点には、ほ場整備事業に伴って設置された既設点を使用した。

第3節 調査の概要

第1項 基本層序（第8図）

調査対象地は射水平野南部、和田川と下条川に挟まれた沖積地で標高8.0m～9.1mに位置する。

基本層序は上層から1層が暗灰黄色砂の水田耕土。2層が黒色粘質シルトの自然堆積層であり遺構覆土。3層が灰白色粘質シルトの地山層。4層が黒褐色腐植シルトの自然堆積層。植物遺体を含み縞まりがなく、湧水を伴い、谷状地形にのみ堆積を確認した。



第8図 基本層序模式図

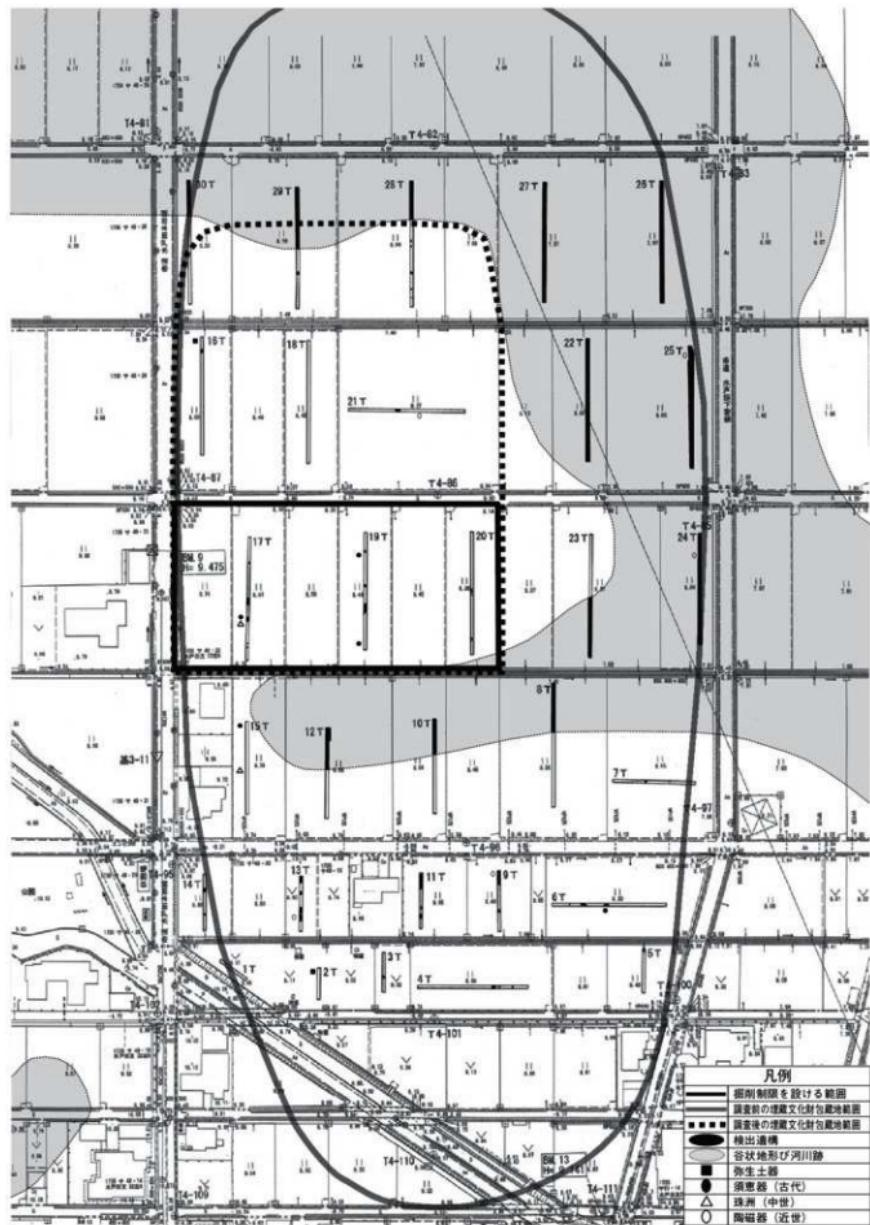
第2項 遺構・遺物及び調査のまとめ（第9・10図、図版4～6）

平成23年度実施の分布調査結果のとおり、谷状地形（8・10・12Tの各北側、22～27・28～30Tの各北側）が複数入り込んでいる状況を確認した。また、16～21・28～30Tの各南側においては保護措置が必要な遺構・遺物を確認した。17Tでは検出した溝状遺構から須恵器・珠洲焼（第10図3・7）、19Tでは地山層直上から須恵器（第10図1・2）が出土した。検出した遺構の帰属時期は古代と考えられ、谷状地形を避けた平坦かつ一段高い場所に小規模な遺構群が広がっている状況が窺える。

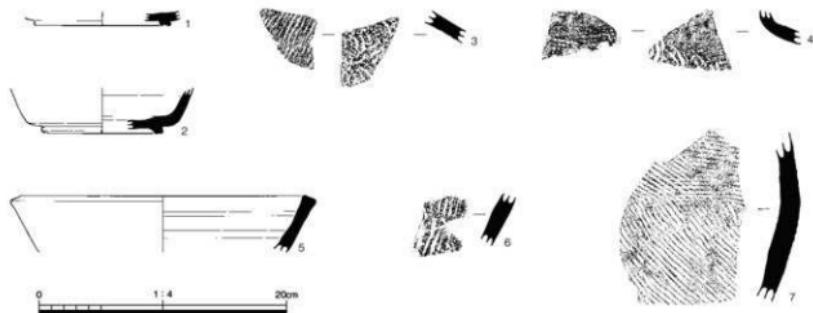
今回の試掘調査結果から、掘削制限をかけるほ場範囲を17・19・20T含む東西6反分に設定した。水戸遺跡は16～21・28～30Tの各南側においてのみ、その遺跡の広がりが確認できたために、周知の埋蔵文化財包蔵地を大幅に範囲縮小した。

参考文献

- 田中 明他 2013年『射水市内遺跡発掘調査報告V－水戸田地区分布調査・大乘妙典塔一字一石經調査他－』射水市教育委員会
田中 明他 2014年『射水市内遺跡発掘調査報告6－平成24年度水戸田地区ほ場整備に伴う試掘調査他－』射水市教育委員会
稻垣尚美他 2015年『射水市内遺跡発掘調査報告7－平成25年度高島A遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他－』射水市教育委員会



第9図 トレンチ配置図 [水戸田地区試掘調査]



第10図 遺物実測図 [水戸田地区試掘調査] (1/4)

回版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第10図	1	19T	須恵器	壺			11.0	焼成不良 にぶい黄褐色	底1/16
	2	19T	須恵器	壺			8.8		底1/4
	3	17T	須恵器	壺(蓋)				青海波文	破片
	4	6T	須恵器	壺				青海波文	破片
	5	15T	珠洲	片口鉢	23.0				口1/16
	6	15T	須恵器	壺(蓋)					破片
	7	17T	珠洲	壺					破片

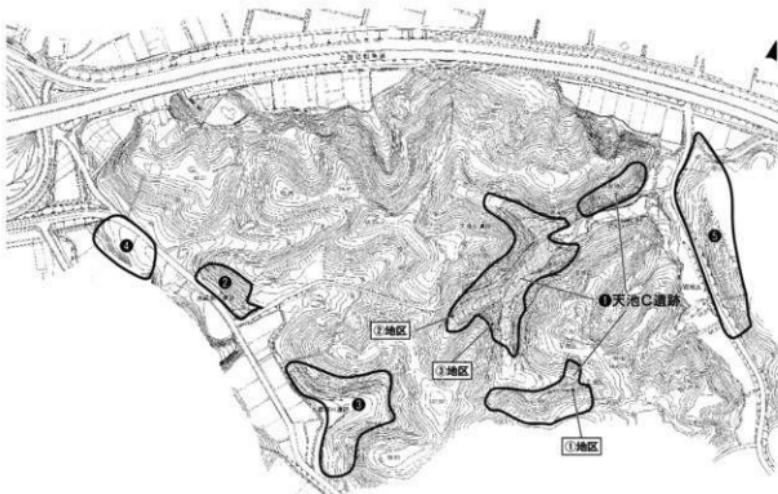
第2表 出土遺物観察表 [水戸田地区試掘調査]

口：口縁部 底：底部

第4章 天池C遺跡工事立会調査

第1節 調査に至る経緯と調査の経過

平成24年7月、小杉インターパーク内において計画されている造成工事に係る事前協議を受けた。事業計画地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地として天池C遺跡・水蔵場G遺跡・水蔵場H遺跡などがあり、平成4・5年度に大規模な本発掘調査を実施、記録保存が完了している地区であった。従って、現況地形の改変を伴う掘削工事（斜面工事[切土・盛土]・調整池）の有無により、遺構が検出された箇所での工事立会を実施する方向で協議を進めた。その後、平成26年7月から造成工事の伐採・伐根後に踏査し、天池C遺跡内において遺構を検出した3地区において調査を実施した。



第11図 調査対象地及び周辺の遺跡

●天池C遺跡 ●水蔵場G遺跡 ●水蔵場H遺跡 ●水蔵場I遺跡 ●天池E遺跡

第2節 調査の方法

遺構が検出された3地区に順次、作業員を投入して遺構掘削・遺物取り上げを人力で行った。進捗状況に応じて写真撮影（高精細デジタル）や遺構断面図・遺構平面図（1/20）作成等の記録図化作業を実施した。測量原点となる標高点及び基準点は、開発業者が設置した既設点を使用した。

第3節 調査のまとめ（第12・13図、図版7・8）

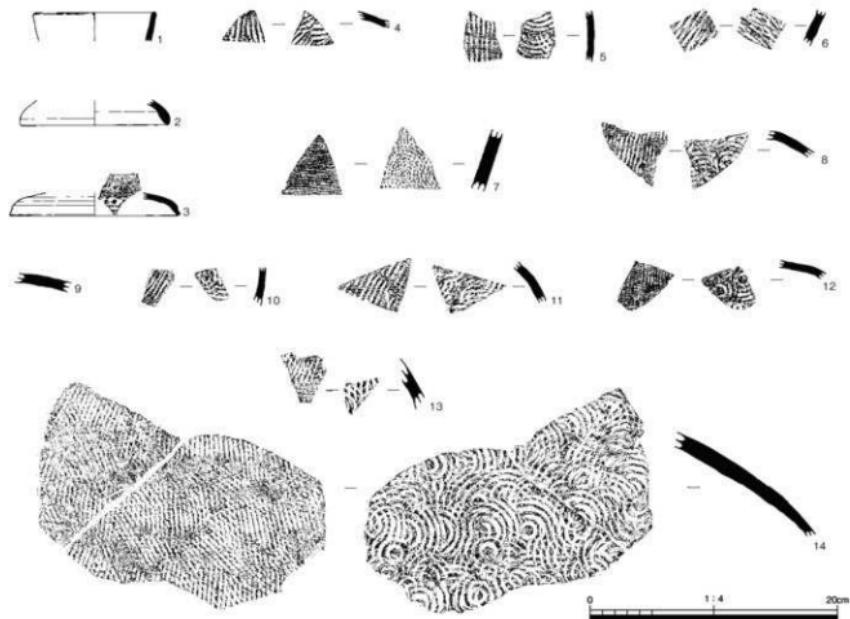
①地区では炭焼窯跡1基を確認した。平成4年本発掘調査、Ⅱ地区S-01炭焼窯跡の続きである。主軸はN-53°-Wをとり、窯体の長さ5.8m（全8.3m）、奥壁の幅1m、比高差11m（計3.4m）の半地下式炭焼窯。側壁と奥壁に1箇所ずつ煙出しを確認し、床面の排水溝はなかった。側壁煙出し底面から須恵器（第12図13・14）が出土。②地区では遺構検出時に須恵器や鉄滓（第12図1～12）が出土。須恵器窯や製鉄炉が考えられたので範囲を拡張したが、遺構は確認されなかった。③地区では地下式

の炭焼窯跡と土坑を1基ずつ確認した。炭焼窯は全長7.1m、遺構検出面からの深さは奥壁で2.1mを測る。炭焼窯の東側壁を掘り込む土坑は、出土遺物がなく時期不明である。

参考文献

原田義範他 2002年『天池C遺跡・水蔵場G遺跡・水蔵場H遺跡発掘調査概要

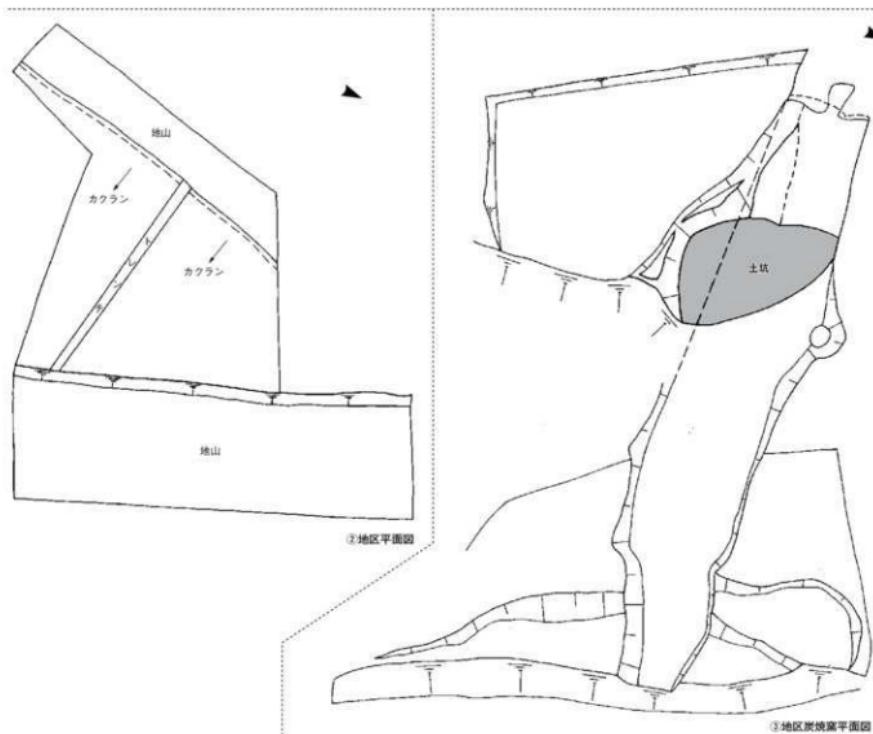
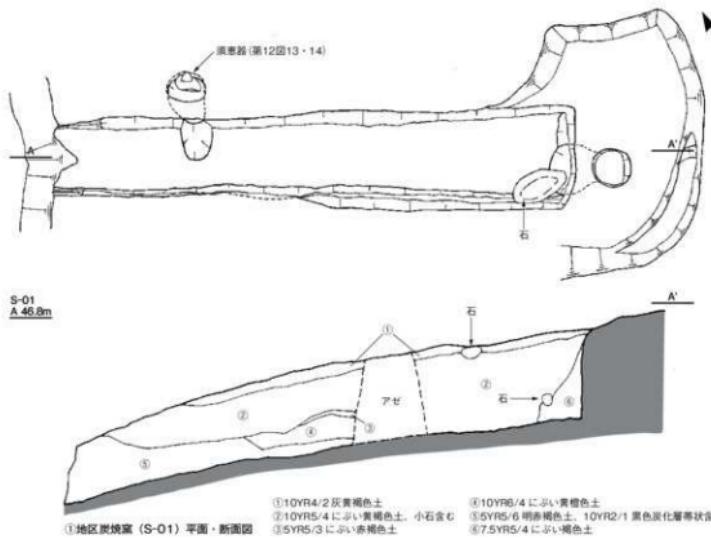
—小杉インターバーク造成事業に先立つ埋蔵文化財調査— 小杉町教育委員会



第12図 遺物実測図 [天池C遺跡工事立会調査] (1/4)

団版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量
第12図	1	②地区	須恵器	环	9.8			自然釉付着	口縁部1/8
	2	②地区	須恵器	蓋	12.0			自然釉付着	口縁部1/12
	3	②地区	須恵器	蓋	13.8			自然釉付着	口縁部1/12
	4	②地区	須恵器	壺(瓶)				青海波文	破片
	5	②地区	須恵器	壺(瓶)				青海波文	破片
	6	②地区	須恵器	壺(瓶)				青海波文	破片
	7	②地区	須恵器	甕				青海波文	破片
	8	②地区	須恵器	瓶				自然釉付着	青海波文
	9	②地区	須恵器	壺(瓶)					破片
	10	②地区	須恵器	壺(瓶)				青海波文	破片
	11	②地区	須恵器	壺(瓶)				青海波文	破片
	12	②地区	須恵器	壺(瓶)				青海波文	破片
	13	①地区	須恵器	壺(瓶)				青海波文	破片
	14	①地区	須恵器	瓶				青海波文	破片

第3表 出土遺物観察表 [天池C遺跡工事立会調査]



第13図 遺構実測図 [天池C遺跡工事立会調査]

第5章 その他の遺跡調査

平成26年度に射水市教育委員会が実施した埋蔵文化財の調査件数は、試掘調査24件・本発掘調査1件・工事立会23件であった。傾向としては、試掘調査件数が昨年度比較で16倍増加、調査原因は宅地造成含む個人専用住宅建築がその5割を占める結果となった。調査後の措置では、試掘調査3件において遺跡の広がりが確認されたため、盛土保存や本発掘調査の対応で協議を行った。

試掘調査

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	対象面積	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物	調査後の措置
1	小杉伊勢第 211087	三ヶ2566 番1号	集合住宅建設	H26.5.30	440.0㎡	17.0㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
2	千田 211259	青井谷92-1	個人専用 住宅建設	H26.6.10	473.0㎡	33.0㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
3	小杉伊勢第 211087	三ヶ2231-1	集合住宅建設	H26.9.8	440.0㎡	32.4㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
4	水戸田 211376	水戸田203番地 外57番	駐営は塙堀	H26.9.16~22	46,279.0㎡	981.9㎡	散布地	古代溝 不明溝、不明土坑	弥生土器・古代須恵器 中世珠洲・近世越中棚田 近世代磁器	保有協議中
5	八塚C 211448	八塚1100番1	個人専用 住宅建築	H26.9.24	227.64㎡	5.5㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
6	新開免 211444	新開免424	駐車場整備	H26.10.8	1,080.0㎡	25.5㎡	散布地	なし	なし	工事実施 (支障なし)
7	戸破神田 211082	戸破神田4014番 番1号	宅地造成	H26.10.15~16	3916.0㎡	249.0㎡	散布地	不明溝、不明土坑 不明土器	古代須恵器・近世陶磁器 不明土器・不明石臼	工事実施 (支障なし)
8	小杉丸 高嶺里路 211421	戸破414番地	集合住宅建設	H26.10.28~29	2,381.84㎡	63.5㎡	窓	不明溝、不明土坑	なし	工事実施 (支障なし)
9	黒河内段日 211104	中老田新字屋丸 621-1 番1号	店舗建設	H26.11.5~15	2,472.50㎡	45.5㎡	散布地 集落	不明土坑	なし	工事実施 (支障なし)
10	戸破神川 211354	戸破2475番地	放課後児童 クラブ室建設	H26.11.11	101.0㎡	8.0㎡	散布地	なし	なし	工事実施 (支障なし)
11	黒河内段日 211105	黒河内前10477 番2号	個人専用 住宅建築	H26.11.11	372.0㎡	11.5㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
12	黒河内段日 211128	黒河内新字3062番 番2号	宅地造成	H26.11.17~18	13,367.23 ㎡	371.6㎡	集落	不明溝、不明土坑 古代須恵器・近世陶磁器	古代須恵器・近世陶磁器	工事実施 (支障なし)
13	黒河南 211127	黒河内新字3007番 番外9番	宅地造成	H26.11.19	3,098.8㎡	64.6㎡	散布地	なし	古代須恵器・不明土器	工事実施 (支障なし)
14	金屋畠 211060	緑町15番1	宅地造成	H26.11.21	624.6㎡	24.0㎡	散布地	なし	なし	工事実施 (支障なし)
15	六渡寺 211061	庄西町一丁目634番1	宅地造成	H26.11.27	1,271.56㎡	54.4㎡	散布地	なし	なし	工事実施 (支障なし)
16	作道 211032	作道456番	個人専用 住宅建築	H26.12.8	429.0㎡	28.0㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
17	千田 211259	青井谷131番1	個人専用 住宅建築	H26.12.8	272.0㎡	20.8㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
18	八塚C 211448	八塚 466 - 3	雨水管敷 整備事業	H27.1.7	29.0㎡	9.0㎡	散布地 集落	不明土坑	なし	工事実施 (支障なし)
19	野原東 211085	手崎字畔草308番 番外2号	作業工場建設	H27.1.16	2,892.4㎡	138.4㎡	散布地 集落	古墳土坑 不明溝、不明土坑	古墳土器・近世陶器 不明土器	工事実施 (支障なし)
20	坂東 211048	寺尾原662番 番1号	資材置場造成	H27.2.30	3,000.0㎡	170.0㎡	散布地 集落	中世溝、中世土坑 不明溝、不明土坑	古代須恵器・中世珠洲 中世土器	工事実施 (支障なし)
21	麻績大沢 211138	麻績大沢229-3 番2号	個人専用 住宅建築	H27.2.23	231.37㎡	7.8㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
22	北高木 211433	北高木541番1	資材置場造成	H27.3.9~10	947.0㎡	110.7㎡	集落 整地、造踏	中世溝 古墳	古代須恵器・古代土器 中世珠洲	工事実施 (盛土保存)
23	加茂社 211088	三ヶ2669 番1号	宅地造成	H27.3.25	1,947.87㎡	135.5㎡	散布地 集落	古代溝、古代土器 不明溝、不明土坑	古墳上土器、古代須恵器 中世珠洲・近世磁器	保有協議中
24	千田 211259	青井谷16-1 番17番	市道改良	H27.3.27	743.0㎡	42.0㎡	散布地 集落	なし	なし	工事実施 (支障なし)
計		19遺跡24件			対象面積	86,636.06㎡	発掘面積	2,649.6㎡		

本発掘調査

No.	遺跡名	所在地	原因	調査期間	発掘面積	種別	検出遺構	出土遺物
1	高島A	城宮佐生2丁目98 番外2号	個人専用 住宅建築	H26.5.7~5.28	191.0㎡	集落	弥生・弥生土坑・古墳土坑	弥生土器・古墳上土器・古代須恵器 中世珠洲・中世土器
計		1遺跡1件					発掘面積	191.0㎡

第4表 平成26年度埋蔵文化財発掘調査一覧



●—●は第4表試振調査の番号を示す。

第14図 試振調査位置図

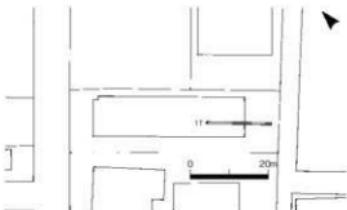
第1節 平成26年度試掘調査概要

1. 小杉伊勢領遺跡

所 在 地 射水市三ヶ2566 外2筆
調査期間 平成26年5月30日
調査面積 対象面積: 440.0m² 発掘面積: 17.0m²
調査原因 集合住宅建設
調査担当者 稲垣尚美
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要

対象地の現況は駐車場であるが、元々は病院が在った場所である。土層は上から1層が茶褐色の盛土、2層が黒褐色の旧耕作土、3層が緑灰色粘質シルトの地山である。病院の建築又は解体時に旧耕作土及び地山が削平を受けており、遺構・遺物が確認されなかったことから、遺跡の広がりは見られない。

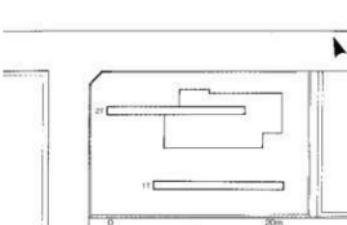


2. 千田遺跡

所 在 地 射水市青井谷92-1
調査期間 平成26年6月10日
調査面積 対象面積: 473.0m² 発掘面積: 33.0m²
調査原因 個人専用住宅建築
調査担当者 田中 明
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要

対象地の現況は水田で標高10.2mに位置する。土層は4層に細分され、地山は明緑灰色(7.5GY7/1)シルトである。北方約50mに下条川が流れしており、地山層(旧地形)も川へ向けて下降していく谷状地形が確認された。また、遺物を包含する土層・遺構が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られないと考える。

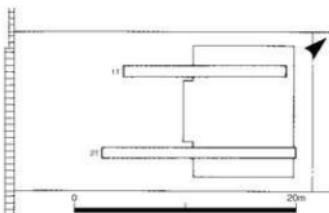


3. 小杉伊勢領遺跡

所 在 地 射水市三ヶ2231-1
調 査 期 間 平成26年9月8日
調 査 面 積 対象面積：440.0m² 発掘面積：324m²
調 査 原 因 集合住宅建設
調 査 担 当 者 田中 明
検 出 遺 構 なし
出 土 遺 物 なし



調 査 概 要 対象地は遺跡包蔵地の北端、標高5.1mに位置する。土層は4層に細分され、地山は明緑灰色（10GY7/1）シルトであり、現況から深さ1.1mを測る。平成4年度、南東100m地点で本発掘調査を実施し、縄文土器や弥生時代の遺構を確認していたが、今回の対象地には同時期の遺構・遺物は確認できず、遺跡の広がりは見られなかった。

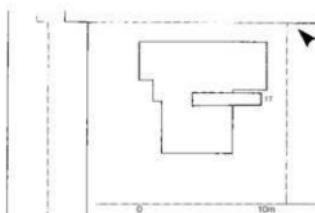


5. 八塚C遺跡

所 在 地 射水市八塚1100番1
調 査 期 間 平成26年9月24日
調 査 面 積 対象面積：227.64m² 発掘面積：5.5m²
調 査 原 因 個人専用住宅建築
調 査 担 当 者 田中 明
検 出 遺 構 なし
出 土 遺 物 なし



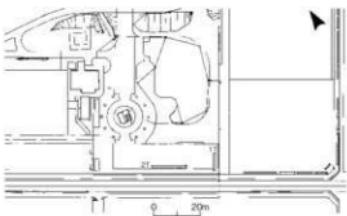
調 査 概 要 対象地の現況は造成地で、標高7.1mに位置する。土層は4層に細分され、地山は灰白色（7.5Y7/2）シルトである。平成10年度、南西30m地点で本発掘調査を実施し、室町時代の寺院跡や区画溝などの遺構を確認していたが、今回の対象地に同時期の遺構や遺物を包含する土層が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。



6. 新開発遺跡

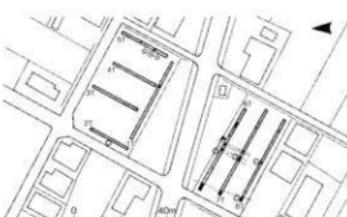
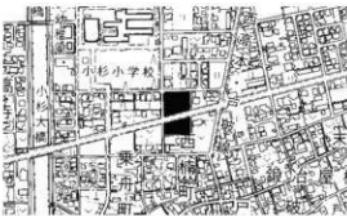
所 在 地 射水市新聞発424
調査期間 平成26年10月8日
調査面積 対象面積: 1,080m² 発掘面積: 25.5m²
調査原因 駐車場整備
調査担当者 田中 明
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 土層は上から1層がぶい黄褐色の植栽表土、2層が明緑灰色砂礫の造成整地土、3層が灰色シルトの旧水田耕作土、4層が明オリーブ灰色（5GY7/1）粘質シルトの地山である。平成4年度、東側隣接地の試掘調査においても遺跡の広がりが見られなかったので、対象地を含む埋蔵文化財包蔵地の北側範囲を縮小した。



7. 戸破神田遺跡 (第15図・図版9)

所 在 地 射水市戸破字神田4014番 外11筆
調査期間 平成26年10月15日・16日
調査面積 対象面積: 3,916m² 発掘面積: 249.0m²
調査原因 宅地造成
調査担当者 田中 明・金三津英則
検出遺構 時期不明: 溝3条・土坑10基
出土遺物 古代須恵器・近世陶磁器・不明土師器
不明石臼

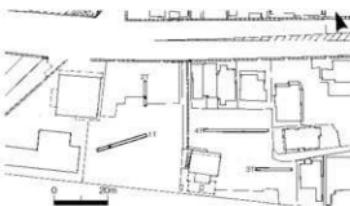
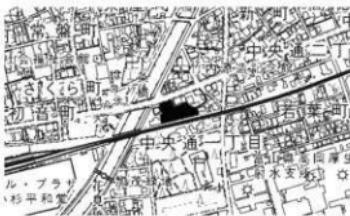


調査概要 対象地は住宅地に残る水田で、標高2.9mに位置する。土層は3層に分けられ、地山は灰オリーブ色（5Y5/2）シルトである。遺構からの出土遺物は、近世越中瀬戸や時期不明のものが多く、覆土も水田床土であることから、近世以降の用排水路と考える。そのため、保護措置の必要なしと判断した。

8. 小杉焼高畠窯跡

所在地 射水市戸破4114番地
調査期間 平成26年10月28日・29日
調査面積 対象面積：2381.84m² 発掘面積：63.5m²
調査原因 集合住宅建設
調査担当者 稲垣尚美・田中 明・金三津英則
検出遺構 時期不明：溝2条・土坑1基
出土遺物 なし

調査概要 土層は上から1層がにぶい黄褐色砂礫土、2層が黒褐色砂質土で共に造成盛土、3層が灰白色（10YR7/1）シルトの地山である。平成20年度、北東50m地点で試掘調査を実施し、小杉焼高畠窯で使用された窯道具や小杉焼片を確認していくが、今回の対象地に明治期の遺構・遺物が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。

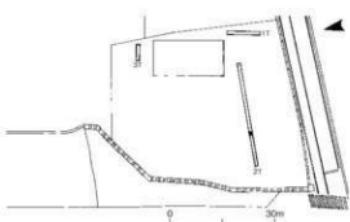


9. 黒河尺目遺跡

所在地 射水市中老田新字星丸621-1 外12筆
調査期間 平成26年11月5日・18日
調査面積 対象面積：2,472.59m² 発掘面積：455m²
調査原因 店舗建設
調査担当者 田中 明
検出遺構 時期不明：土坑1基
出土遺物 なし



調査概要 対象地の現況は竹林で、標高10.5mに位置する。土層は表土直下がすぐ灰白色（5Y7/2）シルトの地山となる。平成2年度、南西30m地点で本発掘調査を実施し、奈良・平安時代の掘立柱建物跡や溝などの遺構を確認していたが、今回の対象地に同時期の遺構や遺物を包含する土層が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。

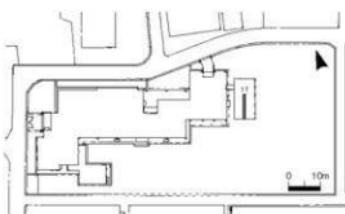


10. 戸破神川遺跡

所 在 地 射水市戸破2475番地
調査期間 平成26年11月11日
調査面積 対象面積: 101.0m² 発掘面積: 8.0m²
調査原因 放課後児童クラブ室建設
調査担当者 田中 明
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要

対象地の現況は保育園駐車場で標高4.4mに位置する。土層は上から1層が灰黄色砂礫、2層が灰白色砂で共に造成盛土、3層が黒褐色シルトの旧耕作土、4層がオリーブ灰色(5GY6/1)粗砂の地山である。現況から深さ1.7m下の地山層は湧水が著しい。遺物を包含する土層や遺構が確認されなかったことから、遺跡の広がりは見られなかった。

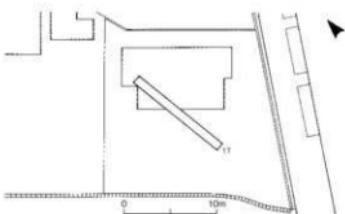


11. 黒河尺目遺跡

所 在 地 射水市黒河字前田477 外2筆
調査期間 平成26年11月11日
調査面積 対象面積: 372.0m² 発掘面積: 11.5m²
調査原因 個人専用住宅建築
調査担当者 田中 明
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要

対象地の現況は宅地内の庭地で標高8.8mに位置する。土層は4層に細分され、地山は明緑灰色(10GY8/1)シルトである。平成13年度、東側に隣接する県道の本発掘調査で検出された谷状地形へ繋がる落ち込みを確認したのみで、遺構や遺物を包含する土層は確認されなかった。保護措置が必要となる埋蔵文化財の広がりは見られなかった。

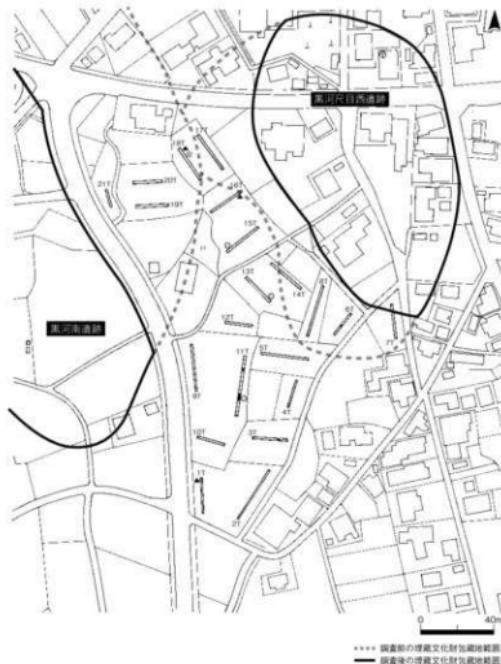


12. 黒河尺目西遺跡（第15図5～9・図版10）

所在地 射水市黒河字尺目3062番 外84筆
 調査期間 平成26年11月17日・18日
 調査面積 対象面積：13,367.23m² 発掘面積：371.6m²
 調査原因 宅地造成
 調査担当者 桶垣尚美・田中 明・金三津英則
 検出遺構 時期不明：溝3条・土坑1基
 出土遺物 古代須恵器・近世陶磁器

調査概要（1～17T）

11Tで検出した溝からは近世陶器が出士、覆土も耕作土の堆積が見られたため、近世以降の用排水路と考える。今回の試掘調査結果により、遺跡の広がりが見られなかった埋蔵文化財包蔵地の西側範囲を縮小した。



13. 黒河南遺跡（第15図4・図版10）

所在地 射水市黒河字尺目3007番 外9筆
 調査期間 平成26年11月19日
 調査面積 対象面積：3,098.8m² 発掘面積：64.6m²
 調査原因 宅地造成
 調査担当者 桶垣尚美・田中 明・金三津英則
 検出遺構 なし
 出土遺物 古代須恵器・不明土師器

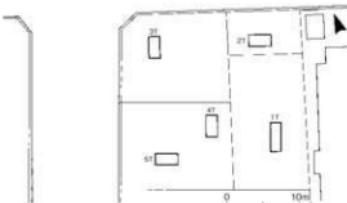
調査概要（18～21T）

土層は3層に分けられ、地山は浅黄色（5Y7/3）シルトである。18T出土の遺物は耕作土からで流れ込みと考える。近隣地での試掘調査結果を精査して、遺跡の広がりが見られない対象地を含む包蔵地の北・東側範囲を縮小した。

14. 金屋畠遺跡

所 在 地 射水市緑町15番1
調査期間 平成26年11月21日
調査面積 対象面積: 624.36m² 発掘面積: 24.0m²
調査原因 宅地造成
調査担当者 田中 明
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 対象地の現況は造成地で標高1.7mに位置する。土層は上から1層が黄褐色山砂、2層が灰黄褐色砂礫で共に造成盛土、3層が褐色シルトの旧耕作土、4層が明緑灰色(7.5GY8/1)シルトの地山である。現況から深さ1.6mを測る。遺物を包含する土層や遺構が確認されなかつたことから、遺跡の広がりは見られないと考える。



15. 六渡寺遺跡

所 在 地 射水市庄西町一丁目634番1 外4筆
調査期間 平成26年11月27日
調査面積 対象面積: 1,271.56m² 発掘面積: 54.4m²
調査原因 宅地造成
調査担当者 田中 明・金津英則
検出遺構 なし
出土遺物 なし

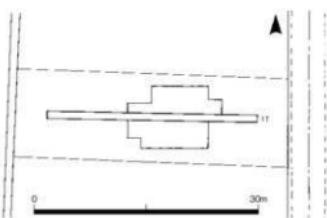
調査概要 対象地は最近まで公民館が在った場所で標高2.2mを測る。土層は上から1層が灰黄色砂礫、2層がオーリープ褐色砂で共に造成盛土、3層が暗灰黄色シルトの自然堆積土、4層がにぶい黄色(2.5Y6/3)・黄褐色シルト(2.5Y5/4)の地山である。遺構確認は4層上面で行つたが、保護措置が必要となる埋蔵文化財の広がりは見られなかつた。



16. 作道遺跡

所在地 射水市作道456番
調査期間 平成26年12月8日
調査面積 対象面積：429.0m² 発掘面積：28.0m²
調査原因 個人専用住宅建築
調査担当者 田中 明
検出遺構 なし
出土遺物 なし

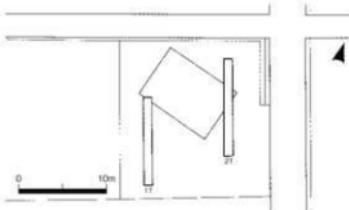
調査概要 対象地の現況は水田で標高0.4mに位置する。土層は1層が灰色の耕作土、2層が明緑灰色（5G7/1）シルトの地山である。平成17年度、北方270m地点で本発掘調査を実施し、弥生時代の遺構・遺物を確認していたが、今回の対象地に同時期の遺構や遺物を包含する土層が確認されなかったため、遺跡の広がりは見られなかった。



17. 千田遺跡

所在地 射水市青井谷131番1
調査期間 平成26年12月8日
調査面積 対象面積：272.0m² 発掘面積：20.8m²
調査原因 個人専用住宅建築
調査担当者 田中 明
検出遺構 なし
出土遺物 なし

調査概要 土層は上から1層が暗灰黄色の耕作土、2層が黄灰色シルトの自然堆積土、3層がオリーブ褐色シルト、4層が黒褐色シルトで共に腐植土、5層が明青灰色（5BG7/1）シルトの地山である。全域において腐植土層の谷状地形が広がっており、沼沢地にあたると考えられるため、保護措置が必要となる埋蔵文化財の広がりは見られなかった。

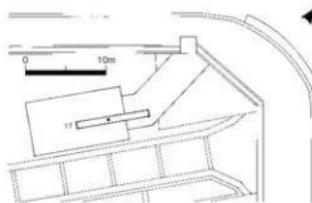


18. 八塚C遺跡

所 在 地 射水市八塚466-3
調査期間 平成27年1月7日
調査面積 対象面積: 29.0m² 発掘面積: 9.0m²
調査原因 雨水幹線整備事業
調査担当者 稲垣尚美
検出遺構 時期不明: 土坑1基
出土遺物 なし

調査概要

対象地は市道と排水路に挟まれた荒蕪地で標高6.8mを測る。土層は上から1層がにぶい黄褐色山砂の造成盛土、2層がオリーブ黒色シルトの自然堆積土、3層が暗オリーブ灰色(5GY4/1)シルトの地山である。検出遺構からの遺物ではなく、時期不明である。遺物を包含する土層・遺構が確認されなかつたため、遺跡の広がりは見られない。

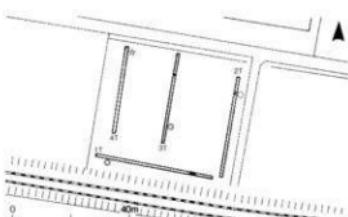
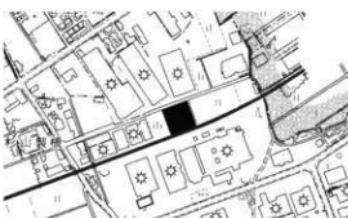


19. 針原東遺跡 (第16図・図版11)

所 在 地 射水市手崎字針原308番 外2筆
調査期間 平成27年1月16日
調査面積 対象面積: 2,492m² 発掘面積: 138.4m²
調査原因 作業工場建設
調査担当者 田中 明・金三津英則
検出遺構 古墳時代: 土坑1基
時期不明: 溝1条・土坑1基
出土遺物 古墳土師器・近世陶器・不明土師器

調査概要

平成3年度、線路南側で本発掘調査を実施し、15世紀代の方形館跡や二重の堀跡を確認していたが、今回の対象地に同時期の遺跡の広がりは見られなかつた。また、2Tの土坑より古墳時代初頭の土師器(壺・蓋)が出土したが、散発的な遺構と考え、周囲に保護措置が必要な埋蔵文化財はないと判断した。



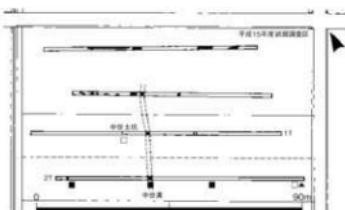
20. 坂東遺跡 (第15図・図版12)

所在地 射水市寺塚原662番 外1筆
調査期間 平成27年2月20日
調査面積 対象面積: 3,000m² 発掘面積: 170.0m²
調査原因 資材置場造成
調査担当者 田中 明・金三津英則
検出遺構 中世: 溝1条・土坑3基
時期不明: 溝4条・土坑2基
出土遺物 古代須恵器・中世珠洲・中世土師器



調査概要

対象地中央部で検出した溝から珠洲が出土したため、中世溝と考える。この溝は平成15年度に北側隣接地の試掘調査で確認した溝に繋がる。また、1Tの土坑からも中世土師器が出土。遺物を伴う遺構が確認されたが、昭和40年代は場整備により遺存状況が悪いと考え、保護措置の必要なしと判断した。



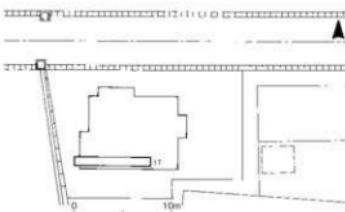
21. 塚越大沢遺跡

所在地 射水市塚越1279-3 外2筆
調査期間 平成27年2月23日
調査面積 対象面積: 231.17m² 発掘面積: 7.8m²
調査原因 個人専用住宅建築
調査担当者 田中 明
検出遺構 なし
出土遺物 なし



調査概要

対象地の現況は造成地で、標高11.8mに位置する。土層は3層に分けられ、地山は淡黄色(5Y8/3)粘質シルトである。平成3年度、南方60m地点で本発掘調査を実施し、奈良・平安時代の炭焼窯・製鉄炉や弥生時代の採土穴等の遺構を確認していたが、今回の対象地に同時期の遺構・遺物は確認できず、遺跡の広がりは見られなかった。

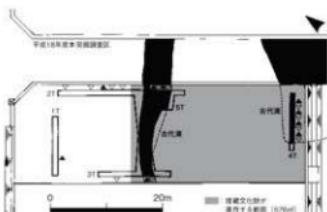
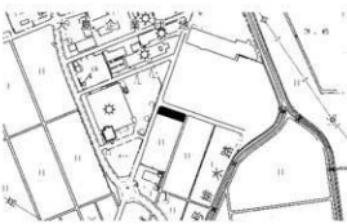


22. 北高木遺跡（第17図・図版13）

所 在 地 射水市北高木541番1
調査期間 平成27年3月9日・10日
調査面積 対象面積: 947.0m² 発掘面積: 110.7m²
調査原因 資材置場造成
調査担当者 田中 明・金三津英則
検出遺構 古代: 溝2条
出土遺物 古代須恵器・古代土師器・中世珠洲

調査概要

対象地の現況は水田で標高3.2mに位置する。須恵器や土師器を包含する古代溝2条を検出した。この溝は平成18年度に北側隣接道路の本発掘調査で確認した溝の続きであり、北側から対象地内へとのびる遺跡の広がりが見られる。このため、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、保護措置となる記録保存(576m²)が必要である。

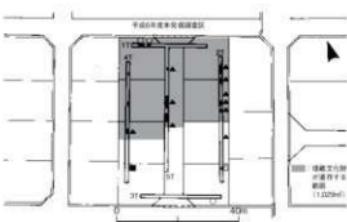


23. 加茂社遺跡（第16図・図版14）

所 在 地 射水市三ヶ2669 外1筆
調査期間 平成27年3月25日
調査面積 対象面積: 1,947.87m² 発掘面積: 135.5m²
調査原因 宅地造成
調査担当者 田中 明・金三津英則
検出遺構 古墳時代: 溝6条・土坑1基
 時期不明: 溝1条・土坑4基
出土遺物 古墳土師器・古代須恵器・中世珠洲
 近世磁器

調査概要

対象地の現況は水田で、標高4.5mに位置する。土層は3層に分けられ、地山は灰色(7.5Y5/1)シルトである。北側半分域で遺物を包含する遺構を検出し、古墳時代・古代の遺跡が良好に遺存していた。このため、遺構に影響が及ぶ工事等を実施する場合は、保護措置となる記録保存(1,029m²)が必要である。

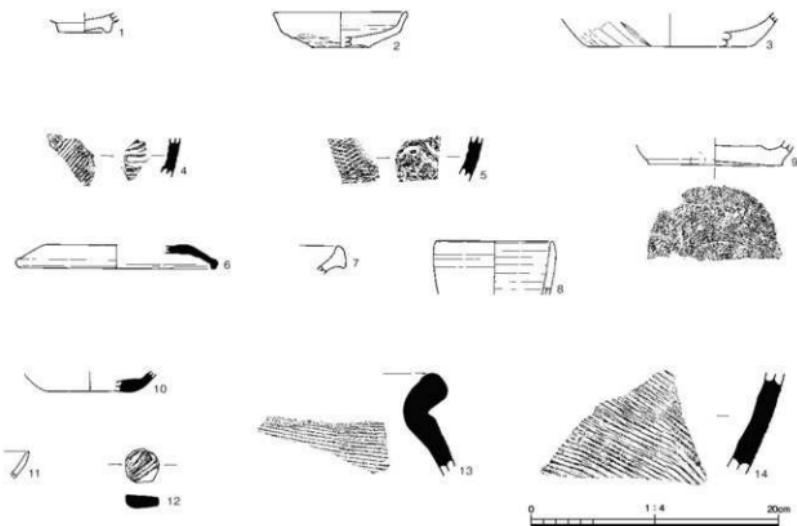
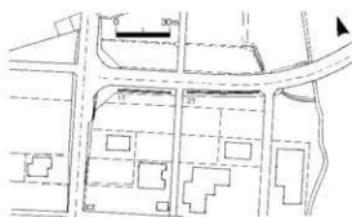


24. 千田遺跡

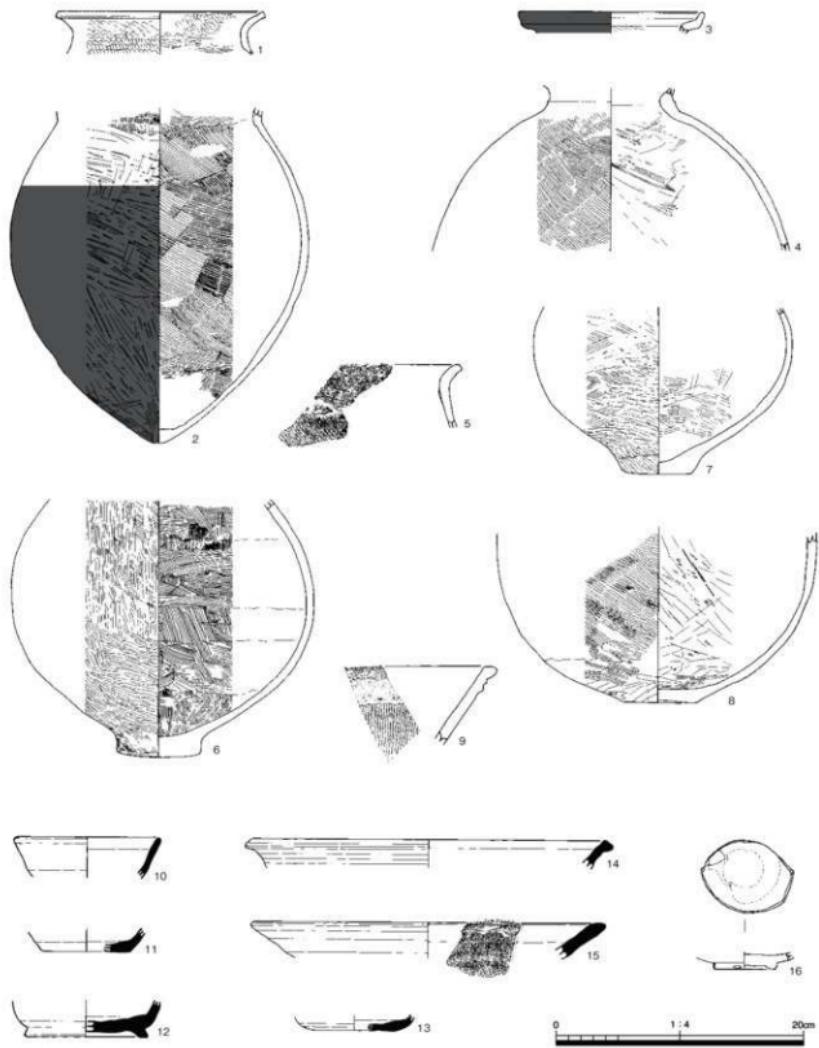
所在地 射水市青井谷16-1 外17筆
 調査期間 平成27年3月27日
 調査面積 対象面積: 743.0m² 発掘面積: 420m²
 調査原因 市道改良
 調査担当者 田中 明
 検出遺構 なし
 出土遺物 なし



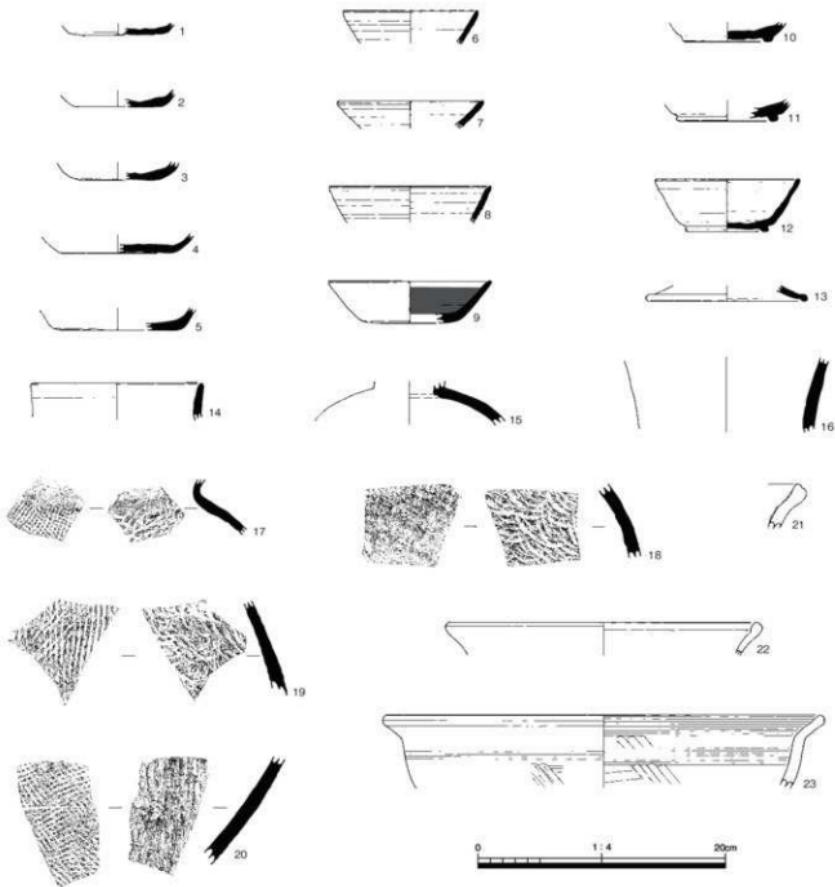
調査概要 対象地の現況は水田で、標高11.8mに位置する。土層は3層に分けられ、地山は明オリーブ灰色（5GY7/1）粘質シルトである。平成20年度、南東50m地点で本発掘調査を実施し、弥生・鎌倉時代の溝・土坑を検出、遺物は弥生土器・珠洲・瀬戸美濃などが出土したが、今回の対象地に保護措置が必要となる埋蔵文化財の広がりは見られなかった。



第15図 遺物実測図【戸破神田遺跡（1～3）・黒河尺目西遺跡（5～9）・黒河南遺跡（4）・坂東遺跡（10～14）】（1/4）



第16図 遺物実測図【針原東遺跡（1～9）・加茂社遺跡（10～16）】（1/4）



第17図 遺物実測図【北高木遺跡】(1/4)

団版	No.	出土地区	種類	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	備考	残存量	
第15回	1	7T	越中瀬戸	碗	10.6	4.2	戸破神田遺跡	銷軸	底3/4	
	2	6T	越中瀬戸	向付		5.0	戸破神田遺跡	灰軸	口1/2 体1/2	
	3	8T	越中瀬戸	鉢		13.8	戸破神田遺跡	銷軸	底1/8	
	4	18T	須恵器	壺(蓋)	15.8	黒河南遺跡	青海波文	破片		
	5	1T 表探	須恵器	壺(蓋)		黒河尺日西遺跡	青海波文	破片		
	6	16T	須恵器	蓋		黒河尺日西遺跡		口1/8		
	7	15T	越中瀬戸	鉢	9.4	黒河尺日西遺跡	銷軸	破片		
	8	11T	不明陶器	碗		黒河尺日西遺跡	透明釉	口1/16		
	9	13T	越中瀬戸	匣鉢		11.0	黒河尺日西遺跡	底外面焼付着	底3/2	
	10	2T	須恵器	壺		7.0	坂東遺跡		底1/4	
	11	2T	中世土師器	壺			坂東遺跡		破片	
	12	2T	珠洲	面子			坂東遺跡		完形	
	13	2T	珠洲	甕			坂東遺跡		破片	
	14	2T	珠洲	甕			坂東遺跡		破片	
第16回	1	2T	古墳土師器	甕	16.8	1.0	針原東遺跡		口15/16	
	2	2T	古墳土師器	甕			針原東遺跡	外面焼付着	体3/4 底完存	
	3	2T	古墳土師器	壺			針原東遺跡	外面焼付着	口1/8	
	4	2T	古墳土師器	壺	15.0	6.8	針原東遺跡		体上部1/8	
	5	2T	古墳土師器	甕			針原東遺跡	外面焼付着	破片	
	6	2T	古墳土師器	壺			針原東遺跡		体4/5 底完存	
	7	2T	古墳土師器	壺	6.2	5.3	針原東遺跡		体下部3/4 底完存	
	8	2T	古墳土師器	壺			針原東遺跡		体下部2/5 底完存	
	9	3T	不明陶器	寸り鉢			針原東遺跡	銷軸	破片	
	10	5T	須恵器	壺	11.6	7.2	加茂社遺跡		口11/8	
	11	2T	須恵器	壺			加茂社遺跡		底1/4	
	12	2T	須恵器	壺			加茂社遺跡		底1/4	
	13	2T	須恵器	壺	28.6	6.8	加茂社遺跡		底3/16	
	14	5T	須恵器	甕			加茂社遺跡	自然軸付着	口11/16	
	15	4T	珠洲	片口鉢			加茂社遺跡	鋸目	口11/16	
	16	2T	不明磁器	碗	4.9	4.9	加茂社遺跡	緑釉 龍の目釉剥ぎ	底完存	
第17回	1	4T	須恵器	壺	8.2	北高木遺跡			底1/5	
	2	3T	須恵器	壺		7.0	北高木遺跡	底1/4		
	3	4T	須恵器	壺		7.1	北高木遺跡	底1/3		
	4	4T	須恵器	壺	9.1	10.5	北高木遺跡		底1/4	
	5	4T	須恵器	壺			北高木遺跡		底1/5	
	6	4T	須恵器	壺	11.1		北高木遺跡		口1/8	
	7	4T	須恵器	壺			北高木遺跡		口1/16	
	8	4T	須恵器	壺	13.0		北高木遺跡		口1/16	
	9	4T	須恵器	壺	13.3	3.4	北高木遺跡	内面焼付着	口1/8	
	10	4T	須恵器	壺			北高木遺跡		底1/4	
	11	4T	須恵器	壺			北高木遺跡		底1/3	
	12	2T	須恵器	壺	11.6	4.3	北高木遺跡		口1/8 底完存	
	13	4T	須恵器	蓋			北高木遺跡		口1/12	
	14	4T	須恵器	甕			北高木遺跡		口1/16	
	15	2T	須恵器	壺(脇)	13.9	6.6	北高木遺跡	自然軸付着	破片	
	16	4T	須恵器	壺(脇)			北高木遺跡		破片	
	17	4T	須恵器	壺(脇)			北高木遺跡	青海波文	破片	
	18	4T	須恵器	甕	25.3	35.6	北高木遺跡	自然軸付着	破片	
	19	4T	須恵器	甕			北高木遺跡	青海波文	破片	
	20	1T	須恵器	甕			北高木遺跡		破片	
	21	4T	土師器	甕	25.3	35.6	北高木遺跡		破片	
	22	4T	土師器	甕			北高木遺跡		口1/16	
	23	3T	土師器	鍋			北高木遺跡		口1/16	

第5表 出土遺物観察表 [試掘調査]

口：口縁部 底：底部 体：体部

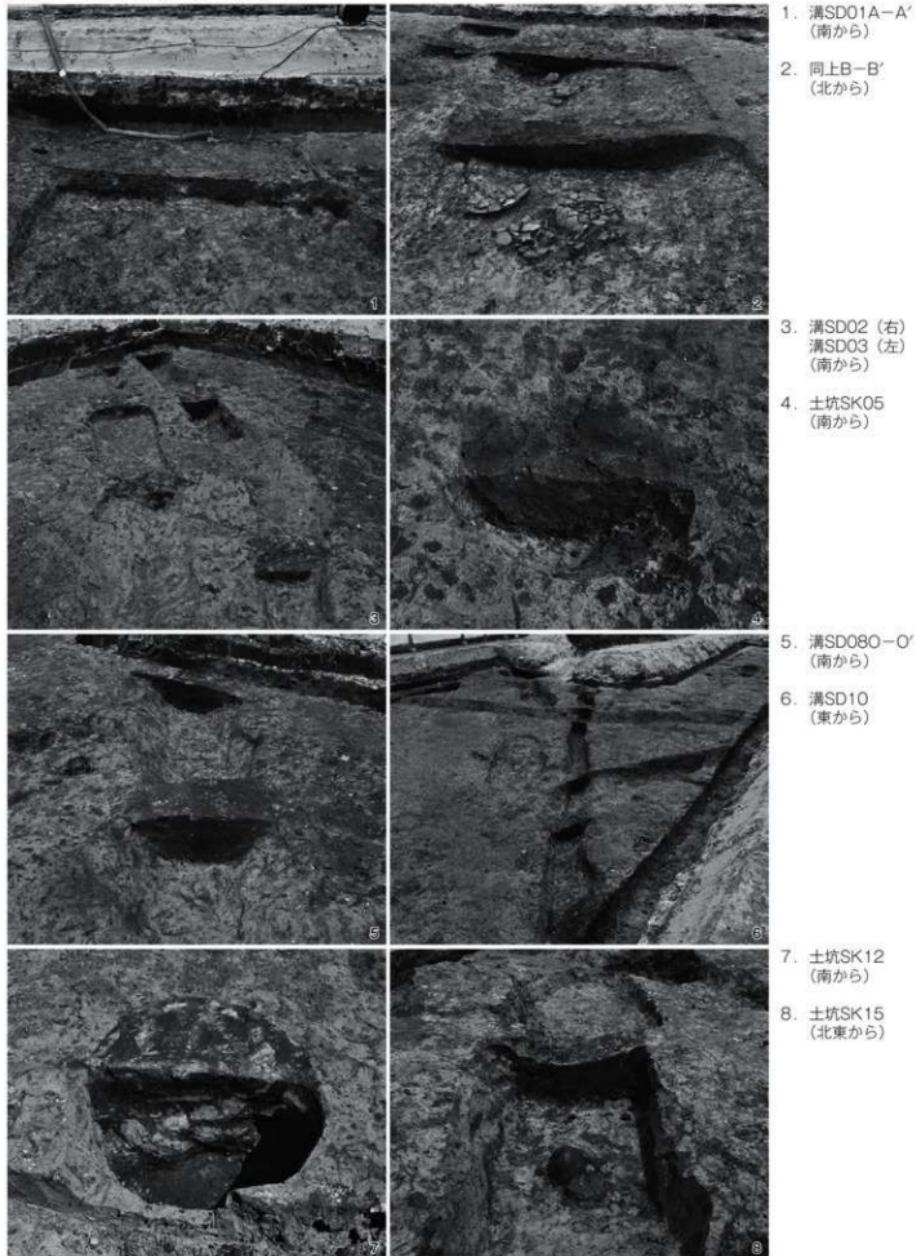
1. 遺構全景
(東から)



2. 溝SD01
遺物出土状況
(北から)



図版2 高島A遺跡〔11地区〕



出土遺物
弥生土器
古墳土師器



弥生土器



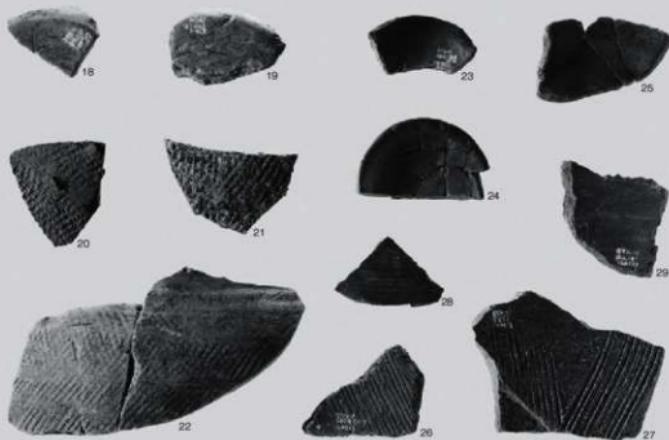
5



4

図版4 高島A遺跡〔11地区〕・水戸田地区試掘調査

高島A遺跡〔11地区〕
出土遺物
須恵器・珠洲
中世土師器



水戸田地区試掘調査
出土遺物
弥生土器
須恵器・珠洲
近世陶器



水戸田地区試掘調査 図版5

1. 17T全景
(南から)



2. 17T遺構検出
(南から)



3. 作業状況
(南から)



図版6 水戸田地区試掘調査



1. 19T全景
(北から)



2. 19T造構検出
(南から)



3. 山砂充填状況
(北から)

1. 半地下式炭焼窯
((①地区)
(西から))



2. 同上 (東から)



3. 同上 (南から)
煙出しづから
遺物出土状況



4. ②地区全景
(東から)



5. ③地区土坑
(北から)

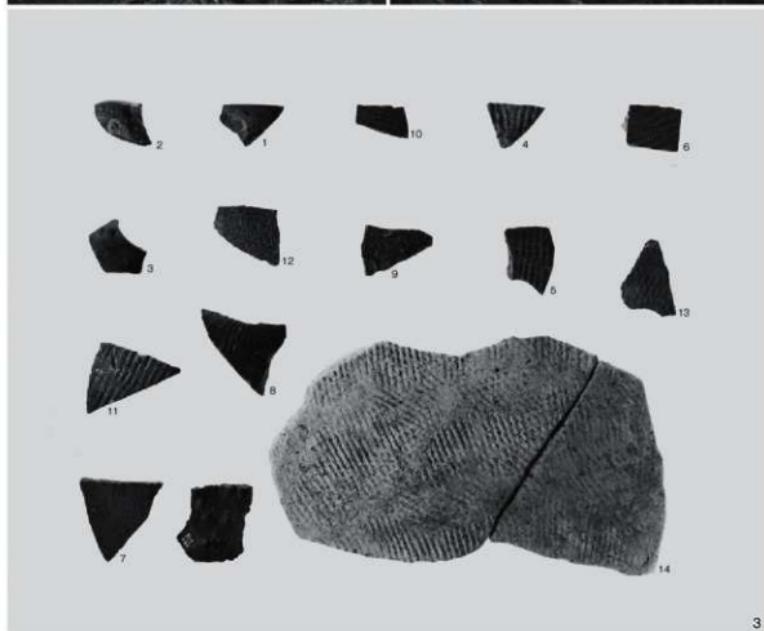


図版8 天池C遺跡工事立会調査



1. 地下式炭焼窯
((③地区)
(北から))

2. 同上 (南から)



3. 出土遺物
((①・②地区)
須恵器
鉄滓)

1. 6T全景
(東から)



2. 5T遺構検出
(南から)



3. 出土遺物
須恵器
土師器
近世陶磁器



図版10 黒河尺目西・黒河南遺跡試掘調査



1. 調査対象地全景
(西から)



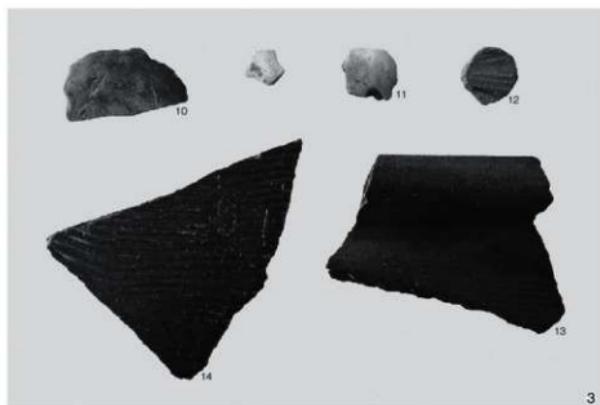
2. 1T遺構検出
(北から)



3. 出土遺物
古墳土師器



図版12 坂東遺跡試掘調査



1. 2T全景
(西から)

2. 1T遺構検出
(北から)

3. 出土遺物
須恵器
珠洲
中世土師器

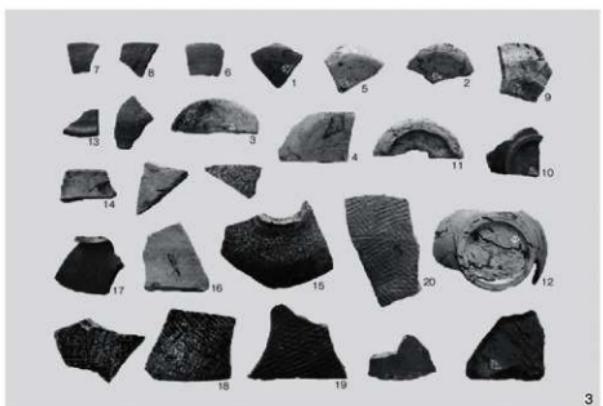
1. 調査対象地全景
(西から)



2. 3T遺構検出
(北から)



3. 出土遺物
須恵器
珠洲



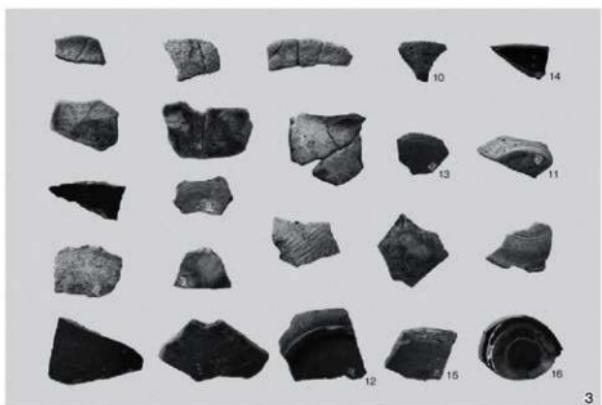
図版14 加茂社遺跡試掘調査



1. 5T全景
(北から)



2. 2T遺構検出
(南から)



3. 出土遺物
古墳土師器
須恵器
珠洲
近世磁器

報告書抄録

ふりがな	いみずしないいせきはくつちょうさほうこくはち						
書名	射水市内遺跡発掘調査報告8						
副書名	平成26年度高島A遺跡本発掘調査・水戸田地区試掘調査他						
編著者名	田中 明						
編集機関	射水市教育委員会						
所在地	〒933-0292 富山県射水市加茂中部893番地 TEL0766-59-8092						
発行年月日	西暦2016年3月11日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
たかしまえいせき 高島A遺跡	いみずし かがのみや かよい 射水市鏡宮弥生	211 027	36°45'15"	137°05'13"	平成26年度 20140507～ 20140528	191	個人専用住宅建築
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
高島A遺跡	集落・散布地	弥生・中世	弥生溝・弥生土坑 古墳土坑	弥生土器・古墳土師器 古代須恵器・中世珠洲 中世土師器			
要約	栗林式土器(壺)の搬入品が弥生溝から出土した。						

* 試掘調査の抄録は第4表を参照下さい。

射水市内遺跡発掘調査報告 8

- 平成26年度高島A遺跡本発掘調査・木戸田地区試掘調査他 -

2016(平成28)年3月11日 発行
編集・発行 射水市教育委員会
〒933-0292
富山県射水市加茂中部893番地
TEL0766-59-8092
印 刷 能登印刷株式会社
